

広報

2019年
No.311

9/1・15

かみす

Pick up

折込 まなびアイかみす

AR

広報かみすが
動き出す



[COCOAR2]

アプリをダウンロードし
表紙にスマートフォンを
かざしてください。
詳細は14ページ

特集

まちの魅力再発見

国体へ行くー！

いきいき茨城ゆめ国体開幕



「かみすスポーツクラブカヌースプリントチーム^{エンデバー}ENDEAVOUR」。地元開催の国体出場を目指して3年前に結成し、見事に夢を叶えました。市内では9月14日のグラウンド・ゴルフを始めとし、テニス、カヌースプリントの大会を開催します。日本屈指の選手が集まる大舞台です。ぜひ、会場で選手に声援を送りませんか。

国体

へ行こう！



いきいき茨城ゆめ国体開幕

茨城での開催は45年ぶり、しかも「令和」初の記念すべき大会となる第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」。県内44市町村のすべてで競技が行なわれ、神栖市はカヌースプリント、グラウンド・ゴルフ、テニスの会場となります。さあ、熱い声援を送りましょう！

大会会場の神之池

カヌースプリント

10月4日(金)～7日(月)

神之池特設カヌー競技場

地元の高校生7人が出場

カヌースプリント(200メートル、500メートル)の舞台は神之池。市の中心部という便利な場所があり、池が細長いため両岸からレースを観戦しやすいなど、これほど好条件が揃った会場は全国的にも稀なのだそう。

国体出場を目指し、かみすスポーツクラブを母体としたカヌースプリントチーム「ENDEAVOR(エンデバー)」が結成されたのは3年前。五位渕敏幸監督(波崎柳川高校カヌー部)の指導のもと、地元の中学生たちが大きな夢に向かって漕ぎ出しました。

神之池で一日10キロもひたすらパドルを漕いだり、冬は黒部川の氷を割りながら進んだり、3年間ひたすら練習に打ち込んだ結果、全メンバー11人中なんと7人が茨城国体の切符をつかみました。出場選手は、波崎柳川高校3年の伊東拓海さん・



息が合ったパドルさばき



水上を疾走するスピード感が魅力



軽々と担いで運ぶ



カヌー倉庫

八反田彩華さん・荒沼瑠依さん・1年の小田倉悠樹さん、波崎高校2年の及川光祐さん、鹿島高校2年の仲野菜祐さん・保立千宙さんです。

仲間とともに入賞を目指す

「エンデバーの強さは、素晴らしいチームワークから生まれたもの。出場枠が限られているため全員での出場は叶いませんが、すべての選手がなくてはならない存在であり、全員でつかんだ国体出場です」と強調する五位淵監督。選手たちに国体への意気込みを聞くと、「励まし合ってきた仲間の分まで頑張って入賞を目指します」(八反田さん)、「最後に仲間みんなで喜び合える大会にしたい」(伊東さん)、「ペアを組んだ相手に迷惑をかけないよう、気持ちよく漕ぎ切ってゴールしたい」(保立さん)と、誰もが仲間への思いを口にします。

昨年の福井国体に続き、2年連続で出場を決めた仲野さんは注目選手。「福井国体では緊張しすぎて練習の成果を出せなかったので、今回は絶対に結果を残そうと心に決めています。目標は5位入賞です」と力強く語ってくれました。

見どころはスピード感

観戦の見どころを教えてくださいました。及川さんです。「一番感じて欲しいのはスピード感。人が全力疾走しても追い付けないスピードでレースをします」ゴール間際はデッドヒートが繰り広げられ、100分の1秒、1000分の1秒の争いに。一糸乱れぬパドリングも見逃せません。

国体を観戦してカヌーへの興味が湧いたら、かみすスポーツクラブが実施するカヌー教室へ。仲野さんと保立さんも、カヌー教室がきっかけで国体選手へと成長しました。今年の秋は、神之池へ出かけませんか？



左から保立さん・仲野さん・五位淵監督・及川さん・八反田さん・伊東さん



グラウンド・ゴルフ

9月14日(土)～15日(日)

神栖中央公園

76歳と83歳の国体選手

茨城国体では37の正式競技のほか、都道府県対抗の得点対象とはならない5つの公開競技が行なわれます。グラウンド・ゴルフは公開競技のひとつ。



神之池緑地での大会



国体に出場する永山さん(予選会準優勝)



国体に出場する野口さん(予選会優勝)



茨城国体予選会表彰式(神栖中央公園)

とつて、会場は神栖中央公園。かみす防災アリーナで開始式・表彰式が行なわれます。神栖市グラウンド・ゴルフ協会には34チーム・約500人が登録し、平均年齢は76歳。その中で国体の予選会を勝ち抜いて出場を決めたのは、野口寿雄さん(76歳)と、永山栄さん(83歳)の2人です。グラウンド・ゴルフは、ボールをクラブで打ち、ホールポストに入るまでの打数を競うもので、絶妙なコ

声援が選手の励みに

「地元開催の国体に出場できるのは一生に一度。とても幸せです。普段は声援をもらうことがないので(笑)、皆さんの応援は励みになります」という野口さんと、「定年後に健康づくりのためグラウンド・ゴルフを始めました。国体では少しでも上位に食い込めるよう頑張ります」と話す永山さん。「地元開催なので応援の計画も盛り上がっていますよ」と、神栖市グラウンド・ゴルフ協会の岩井武会長長の表情も晴れやかです。観戦のマナーは、打つ瞬間だけ静かにすること。

茨城チームを追いかけて、ホールインワンの瞬間は大



岩井会長

昭和49年の炬火

第29回国民体育大会「水と緑のまごころ国体」

オリンピックの聖火にあたるのが「炬火」です。前回の茨城国体では、県内3カ所で採火し、聖火リレーのようにトーチからトーチへと火をつなぎながら県内全市町村を周りました。



昭和49年(1974年)大会のトーチ



旧波崎町での炬火リレー練習風景

当時、軽野東小学校の教員だった鈴木正彦さんに炬火リレーの思い出を聞きました。「軽野東小学校前の道路で、炬火の引き継ぎ式が行なわれました。柳川小学校の児童から軽野東小学校の児童へ、互いのトーチを合わせて炬火が移されたのをよく覚えています。その時に使ったトーチは、しばらく学校に飾られていました」

こうして、旧神栖町(18区間)と旧波崎町(23区間)を2日間かけてリレーし、最終的に笠松運動公園陸上競技場へ運ばれました。



鈴木さん



昨年の国体リハーサル大会(神栖海浜庭球場)



テニス教室の様子

テニス

9月29日(日)～10月2日(水)

神栖海浜庭球場

神栖市自慢のテニスコート

砂入り人工芝のテニスコート24面とクラブハウスが整備された神栖海浜庭球場は、関東有数の規模を誇り、2002年にはインターハイも行な

われました。今回、国体に向けてコートを全面改修。全国から集まる選手たちが最高のコンディションでプレーできるよう、準備を整えました。

トップ選手の熱戦を間近で

神栖市硬式庭球連盟の沼田英明会長は、「茨城県、神栖市と一体となり、連盟として全力を挙げて国体の成功に尽力します。国体は、トップ

選手の熱戦を間近で観戦できる絶好のチャンス。ハイレベルな技術はもちろん、マナーの素晴らしい方や精神力の強さを一人でも多くの皆さんに見てもらい、テニスの魅力を知ってほしいと願っています」と熱い思いを語ります。

「テニス環境に

恵まれた神栖市では昔からテニスが盛んで、神栖市硬



沼田会長

式庭球連盟の会員は約350人。年間18大会を開催するほか、40年前からテニス教室を実施しています。子どもから高齢者まで、また初心者でも思う存分テニスを楽しめるよう地道に活動してきました。今後さらにテニス仲間を増やすためにも、国体で弾みをつけたと考えています。」

令和元年の炬火

第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」

県内の全44市町村で、それぞれ特色のある採火イベントが行なわれました。神栖市では市内8つの中学校で、マイギリ式火起こし器で火種を作って採火。かみす防災アリーナのオープニングイベントで集火式を行ない「神栖市の火」が誕生しました。この火が国体の開会式で各市町村の火とひとつになり、炬火台に点火されることとなります。

笠松運動公園陸上競技場で行なわれる総合開会式では、波崎二中3年の安藤悠乃さんが神栖市を代表して炬火ランナーを務めます。安藤

さんは陸上競技で優れた実績があり、「皇后杯全国都道府県対抗女子駅伝競走大会」の茨城県代表選手として、区間8位の活躍をしています。

「全国から素晴らしい選手が集まる国体は、私の目標とする大会のひとつ。今回、炬火ランナーとして走ることができてうれしいです。採火式で集めた火をつなぐのは、とても重要な役割。神栖市の皆さんの思いまでも届けるつもりです」と話してくれました。安藤さんがつなぐ炬火は国体期間中、選手の活躍を見守るシンボルとなります。



安藤さん